



**OMRON**

*Sensing tomorrow™*

# 2011年度(2012年3月期) 決算説明会

2012年4月27日  
オムロン株式会社



# 目次

1. 2011年度(2012年3月期)、業績結果 … P. 2
2. 2012年度(2013年3月期)、業績見通し … P.12
3. VG2020 GLOBE STAGE … P.21
4. 参考資料 … P.27



# 2011年度(2012年3月期)、業績結果

# 連結損益計算書 <2011年度>

- 前回見通し比：売上高はほぼ見通しどおり、営業利益は上ぶれ
- 前年度比： 売上高は微増、利益は減少  
(為替・原材料の影響を除くと売上高6,377億円、営業利益486億円で増収・増益(売上総利益率は37.6%))

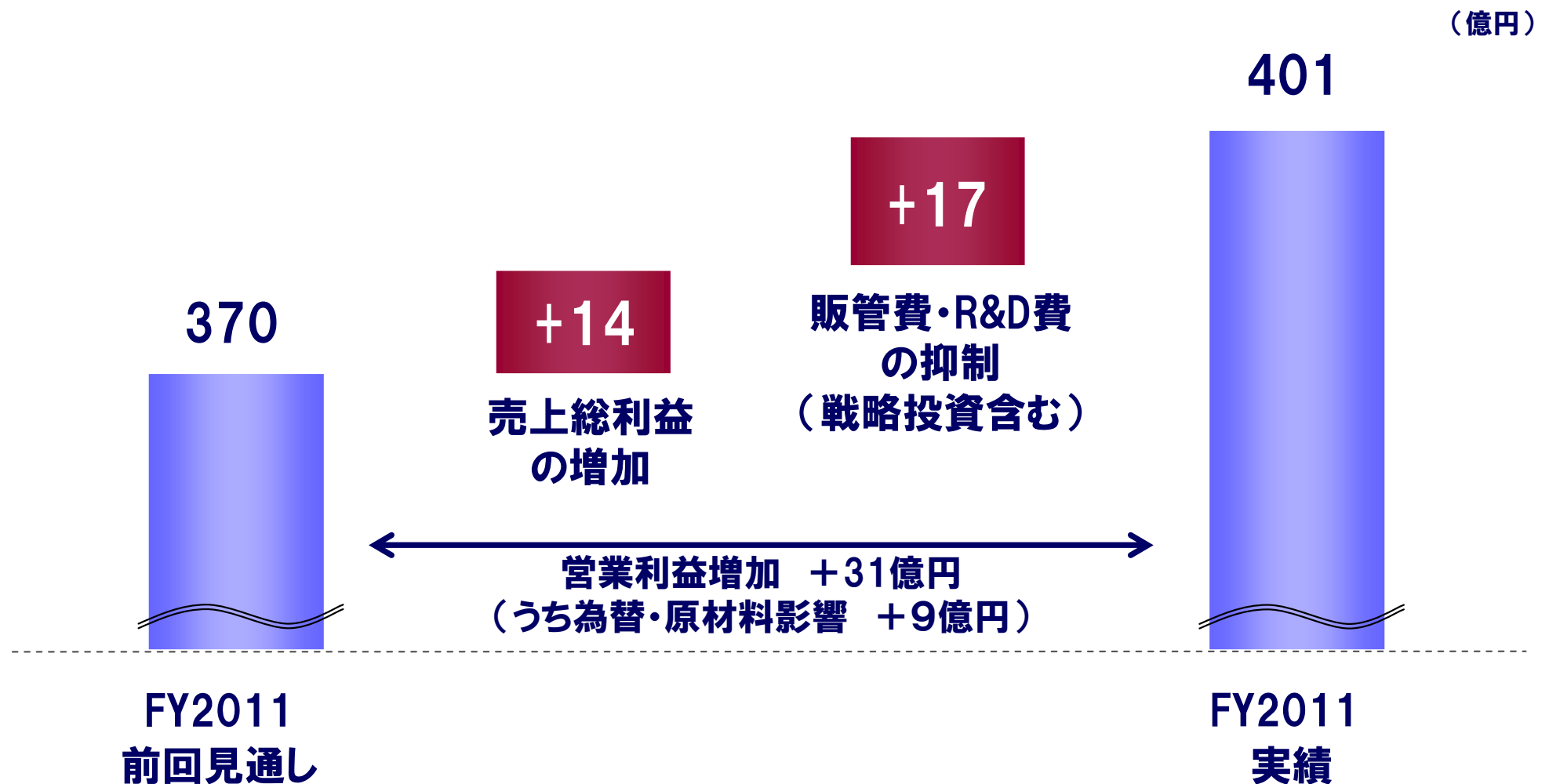
(億円)

	2011年度	2011年度 (前回見通し)	前回見通し 比・差	2010年度	前年度 比・差
売上高	6,195	6,150	+0.7%	6,178	+0.3%
売上総利益 (売上総利益率)	2,279 (36.8%)	2,265 (36.8%)	+0.6% (Δ0.0P)	2,317 (37.5%)	Δ1.6% (Δ0.7P)
販管費	1,457	1,465	Δ0.6%	1,424	+2.3%
R&D費	421	430	Δ2.1%	413	+1.9%
営業利益 (営業利益率)	401 (6.5%)	370 (6.0%)	+8.5% (+0.5P)	480 (7.8%)	Δ16.4% (Δ1.3P)
営業外費用	66	70	Δ5.9%	63	+3.9%
税引前純利益	335	300	+11.8%	417	Δ19.5%
当期純利益	164	140	+17.1%	268	Δ38.8%

USDレート(円)	79.3	78.4	+0.9	85.8	Δ6.5
EURレート(円)	110.3	108.3	+2.0	113.5	Δ3.2
銅価格(円)	738	733	+5	714	+24
銀価格(円)	92,379	91,783	+596	62,664	+29,715

※前回見通し …… 1月27日公表の見通し

- 売上増と販管費、R&D費の抑制により、  
前回見通しから31億円の上げ





# 営業利益増減分析 <前年度比>

- 営業利益は79億円の減少
- 為替・原材料の影響は85億円
- 戦略投資も含めて成長に向けて必要な投資を実行

(億円)





# 事業セグメント別業績

➤ 各事業セグメントにおいて、売上高はほぼ前回見通しどおり

(億円)

	売上高					営業利益				
	2011年度	2011年度 (前回見通し)	前回 見通し差	2010年度	前年度差	2011年度	2011年度 (前回見通し)	前回 見通し差	2010年度	前年度差
工場自動化用制御機器事業 (IAB)	2,708	2,680	+28	2,719	△11	333	320	+13	382	△49
家電・通信用電子部品事業 (EMC)	830	830	+0	812	+18	72	80	△8	119	△47
自動車用電子部品事業 (AEC)	850	840	+10	843	+7	27	25	+2	42	△15
社会システム事業 (SSB)	572	580	△8	638	△66	1	0	+1	17	△16
健康・医療機器事業 (HCB)	624	620	+4	606	+18	29	32	△3	41	△12
その他	535	530	+5	497	+38	△36	△42	+6	△47	+11
消去調整他(本社)	76	70	+6	63	+13	△25	△45	+20	△74	+49
合計	6,195	6,150	+45	6,178	+17	401	370	+31	480	△79

# 事業セグメント別概況 <前年度比>

セグメント	売上高、営業利益の前年度比での概況	
工場自動化用制御機器事業 (IAB)	売上高	国内：前年度並み。半導体・電子部品は減少、自動車・工作機は増加 海外：前年度並み。中国・欧州は減少、米州は石油・ガス関連が好調で増加
	営業利益	円高、戦略投資の実行などにより減少
家電・通信用電子部品事業 (EMC)	売上高	国内：前年度並み。家電は減少、自動車・アミューズメントは増加 海外：前年度比増。自動車業界向け商品やモバイル機器搭載商品が好調
	営業利益	FA関連の売上減少、円高・原材料価格の高騰などにより減少
自動車用電子部品事業 (AEC)	売上高	国内：前年度並み。上期に震災影響で減少、下期に回復 海外：前年度並み。タイの工場の被災の影響は国内代替生産によりカバー
	営業利益	円高、震災・洪水影響などにより減少
社会システム事業 (SSB)	売上高	前年度比減少。震災影響による顧客の投資先送りなどによる
	営業利益	前年度比減少。売上減少による
健康・医療機器事業 (HCB)	売上高	国内：前年度並み。震災影響を新商品によるシェア拡大によりカバー 海外：前年度比増。新興国を中心に売上が拡大
	営業利益	円高、戦略投資の実行などにより減少
その他 (環境・バックライト・MD・電子)	売上高	前年度比増。環境事業、バックライト事業の売上増による
	営業利益	売上増、MDのコスト削減などにより、マイナス幅が縮小





# 連結貸借対照表

- 第4四半期に計画した生産調整による在庫圧縮は計画どおり完了  
(12月末の4Q想定為替レート(USD:76円、ユーロ:98円)で換算すると150億円の削減)
- 総資産はCP償還による現預金の減少と繰延税金資産の取崩しにより減少

(億円)

	2012年3月末	2011年3月末	2011年12月末 (参考)
<b>資産の部</b>	<b>5,373</b>	<b>5,628</b>	<b>5,233</b>
現預金	453	747	447
売上債権	1,411	1,353	1,227
在庫	923	862	1,023
繰延税金、その他流動資産	295	317	309
固定資産	1,207	1,200	1,179
投資その他資産	1,084	1,149	1,048
<b>負債の部</b>	<b>2,156</b>	<b>2,491</b>	<b>2,151</b>
短期借入金	188	455	297
長期借入金	0	8	0
支払い手形及び買掛金等	793	778	771
退職給付引当金	604	655	608
その他負債	571	595	475
<b>純資産の部</b>	<b>3,217</b>	<b>3,137</b>	<b>3,082</b>
資本金・その他剰余金等	4,338	4,236	4,322
その他包括利益(損失)累計額	△684	△662	△803
自己株式	△445	△446	△446
非支配持分	8	9	9
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>5,373</b>	<b>5,628</b>	<b>5,233</b>



# 連結キャッシュ・フロー計算書

- 設備投資は前年度比50億円増の283億円を実行し、成長の布石を打った
- 利益の減少と設備投資の増加により、FCFは前年度を下回る

(億円)

	2011年度	2010年度
営業活動によるキャッシュフロー	319	420
投資活動によるキャッシュフロー	△265	△202
フリー・キャッシュフロー (FCF)	54	218
財務活動によるキャッシュフロー	△335	33
換算レート変動の影響	△15	△21
現金及び現金同等物の増減額	△295	230
当期末の現金残高	453	747

設備投資	283	232
減価償却費	226	230



# エリア別売上高・営業利益

➤ 中華圏、東南アジア等の新興国の売上高は、前年度を上回る

(億円)

	2011年度	
	売上高	営業利益
日本	3,076	217 (7.1%)
米州	748	30 (4.0%)
欧州	836	30 (3.6%)
中華圏	1,011	84 (8.3%)
東南アジア他	524	47 (9.0%)
消去又は全社	-	△7
合計	6,195	401 (6.5%)

2010年度		前年度比	
売上高	営業利益	売上高	営業利益
3,119	298 (9.5%)	△1.4%	△27.1% (△2.5P)
744	28 (3.8%)	+0.6%	+5.4% (+0.2P)
845	34 (4.0%)	△1.1%	△11.0% (△0.4P)
970	114 (11.8%)	+4.2%	△26.2% (△3.4P)
500	60 (11.9%)	+4.7%	△20.6% (△2.9P)
-	△54	-	-
6,178	480 (7.8%)	+0.3%	△16.4% (△1.3P)

※( )内の数字は営業利益率



# エリア別売上高 <同一為替レート比較>

- 同一為替レートでは、海外の売上高は全エリアで増加
- 米州、中華圏、東南アジアでは、2桁の伸び

(億円)

	2011年度	2010年度	前年度比
米州	748	676	+10.7%
欧州	836	816	+2.5%
中華圏	1,011	916	+10.4%
東南アジア他	524	469	+11.7%

※2010年度の数値は、2011年度の為替レートに合わせた売上高



# 2012年度(2013年3月期)、業績見通し



## <方針>

**Accelerate VG2020 !**  
~“競争能力強化”による高成長構造と高収益構造の実現~

## <実行プラン>

- ①IA事業の最強化
- ②アジア・中国を中心とした、新興国での売上拡大
- ③強いビジネスモデルの構築による、環境事業の売上拡大

# 連結損益計算書 <2012年度>

- 新興国での売上拡大を梃子に、主力5事業すべてで増収増益を達成し、売上高は6,500億円、営業利益は460億円を目指す

(億円)

	2012年度
<b>売上高</b>	<b>6,500</b>
<b>売上総利益</b>	<b>2,435</b>
<b>(売上総利益率)</b>	<b>(37.5%)</b>
販管費	1,520
R&D費	455
<b>営業利益</b>	<b>460</b>
<b>(営業利益率)</b>	<b>(7.1%)</b>
営業外費用	30
税引前純利益	430
当期純利益	285

2011年度	前年度比・差
6,195	+4.9%
2,279	+6.9%
(36.8%)	(+0.7P)
1,457	+4.4%
421	+8.1%
401	+14.6%
(6.5%)	(+0.6P)
66	△54.5%
335	+28.2%
164	+73.9%

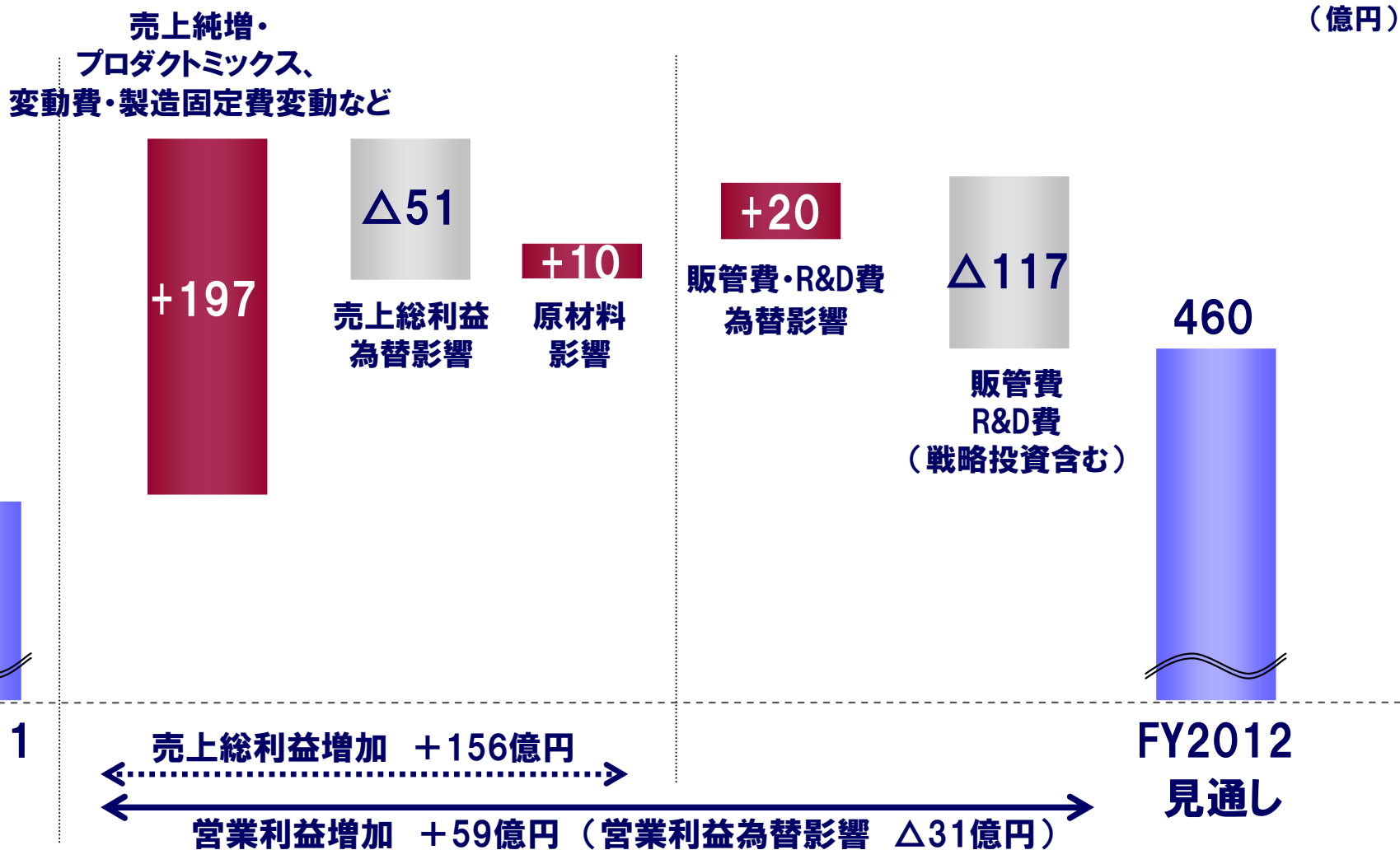
USDレート(円)	78.0
EURレート(円)	104.0
銅価格(円)	700
銀価格(円)	87,000

79.3	△1.3
110.3	△6.3
738	△38
92,379	△5,379



# 営業利益増減分析 <前年度比>

➤ 円高によるマイナス影響を克服し、VG2020戦略投資を実行し、  
営業利益は約60億円の増加







# 事業セグメント別業績 <2012年度>

## ➤ 主力5事業すべてで増収増益を目指す

(億円)

	売上高			営業利益		
	2012年度	2011年度	前年度比	2012年度	2011年度	前年度比
工場自動化用制御機器事業 (IAB)	2,740	2,708	+1.2%	350	333	+5.0%
家電・通信用電子部品事業 (EMC)	890	830	+7.2%	80	72	+10.5%
自動車用電子部品事業 (AEC)	950	850	+11.7%	50	27	+85.8%
社会システム事業 (SSB)	600	572	+4.9%	10	1	+920.4%
健康・医療機器事業 (HCB)	675	624	+8.1%	40	29	+37.1%
その他	590	535	+10.2%	△20	△36	-
消去調整他(本社)	55	76	△25.8%	△50	△25	-
合計	6,500	6,195	+4.9%	460	401	+14.6%



# 事業セグメント別、半期別業績

➤ 2012年度は、下期からの本格的な回復を見込む

(億円)

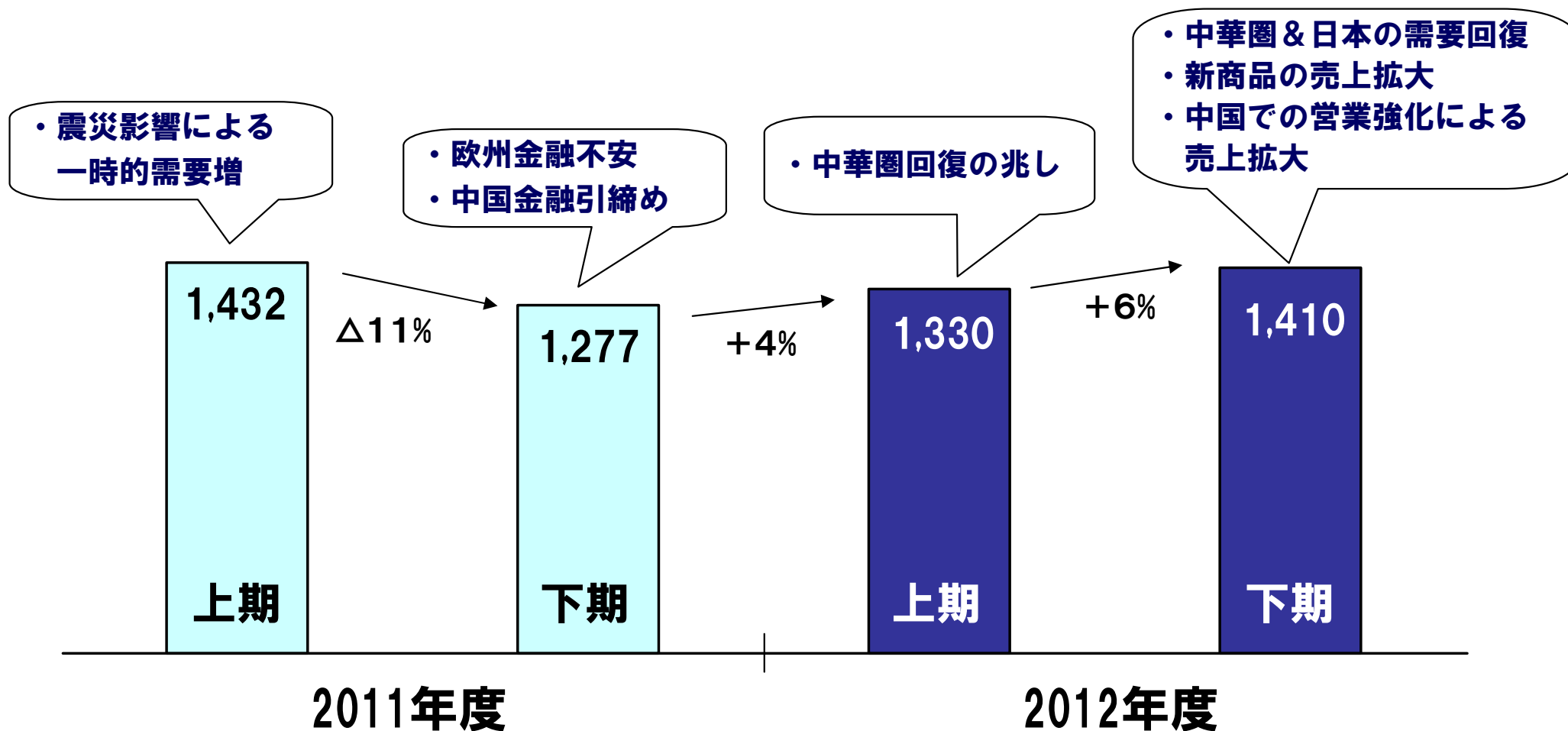
	2012年度						2011年度						前年度比					
	売上高			営業利益			売上高			営業利益			売上高			営業利益		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
工場自動化用制御機器事業 (IAB)	1,330	1,410	2,740	155	195	350	1,432	1,277	2,708	214	119	333	△7.1%	+10.4%	+1.2%	△27.6%	+63.7%	+5.0%
家電・通信用電子部品事業 (EMC)	430	460	890	25	55	80	408	422	830	42	31	72	+5.5%	+8.9%	+7.2%	△39.8%	+78.1%	+10.5%
自動車用電子部品事業 (AEC)	470	480	950	25	25	50	401	450	850	14	13	27	+17.3%	+6.8%	+11.7%	+74.8%	+98.3%	+85.8%
社会システム事業 (SSB)	210	390	600	△45	55	10	205	367	572	△35	36	1	+2.7%	+6.1%	+4.9%	-	+53.2%	+920.4%
健康・医療機器事業 (HCB)	310	365	675	15	25	40	294	331	624	21	8	29	+5.6%	+10.3%	+8.1%	△27.5%	+194.5%	+37.1%
その他	310	280	590	△10	△10	△20	262	273	535	△20	△15	△36	+18.4%	+2.4%	+10.2%	-	-	-
消去調整他(本社)	25	30	55	△10	△40	△50	33	42	76	△8	△18	△25	△23.3%	△27.8%	△25.8%	-	-	-
合計	3,085	3,415	6,500	155	305	460	3,033	3,162	6,195	227	174	401	+1.7%	+8.0%	+4.9%	△31.8%	+75.1%	+14.6%



# IAB売上高推移(半期別)

- 11年度下期をボトムに売上高は回復
- 12年度下期は、各エリアでのさらなる需要回復に加え、VG施策の成果を確実にかりとり、売上拡大をはかる

(億円)



事業セグメント	事業環境認識
工場自動化用制御機器事業 (IAB)	<b>国内：自動車・工作機業界での設備投資需要継続</b> <b>海外：米州 … 北米での自動車関連投資の増加</b> <b>欧州 … 金融不安による不透明な状況継続</b> <b>アジア … 新興国での設備投資需要増加</b> <b>中華圏 … 金融引締め緩和による設備投資需要増加</b>
家電・通信用電子部品事業 (EMC)	<b>国内：アミューズメント機器などの需要増加</b> <b>海外：米州 … 車載関連の需要継続</b> <b>欧州 … 金融不安による不透明な状況継続</b> <b>アジア … 新興国での家電需要増加</b> <b>中華圏 … 環境関連、スマートメーターなどの需要増加</b>
自動車用電子部品事業 (AEC)	<b>国内：自動車メーカーの需要回復</b> <b>海外：北米市場は回復、中国や東南アジアなどの新興国での需要増加</b>
社会システム事業 (SSB)	<b>環境ソリューションなどの需要増</b>
健康・医療機器事業 (HCB)	<b>国内：健康志向の高まり、健康管理サービスへのニーズの増加</b> <b>海外：新興国での健康志向の高まりによる需要増加</b>
<b>その他</b> <small>(環境・バックライト・MD・電子)</small>	<b>環境関連、バックライトの需要増加</b>



## ➤ 今後の成長のための積極的な投資を継続する

(億円)

	2012年度	2011年度	前年度比
<b>研究開発費</b>	455	421	+8.1%
<b>設備投資</b>	315	283	+11.3%
<b>減価償却費</b>	240	226	+6.2%



# VG2020 GLOBE STAGE

## 方針

グローバルでの収益・成長構造づくり

## 目標

2013年度  
売上総利益率 **39%** / 営業利益率 **9%**  
ROE **11%**  
売上高 **7,000**億円前後 / 営業利益 **630**億円前後

(前提為替レート: USD=78円、EUR=104円)

## 取組み (不変)

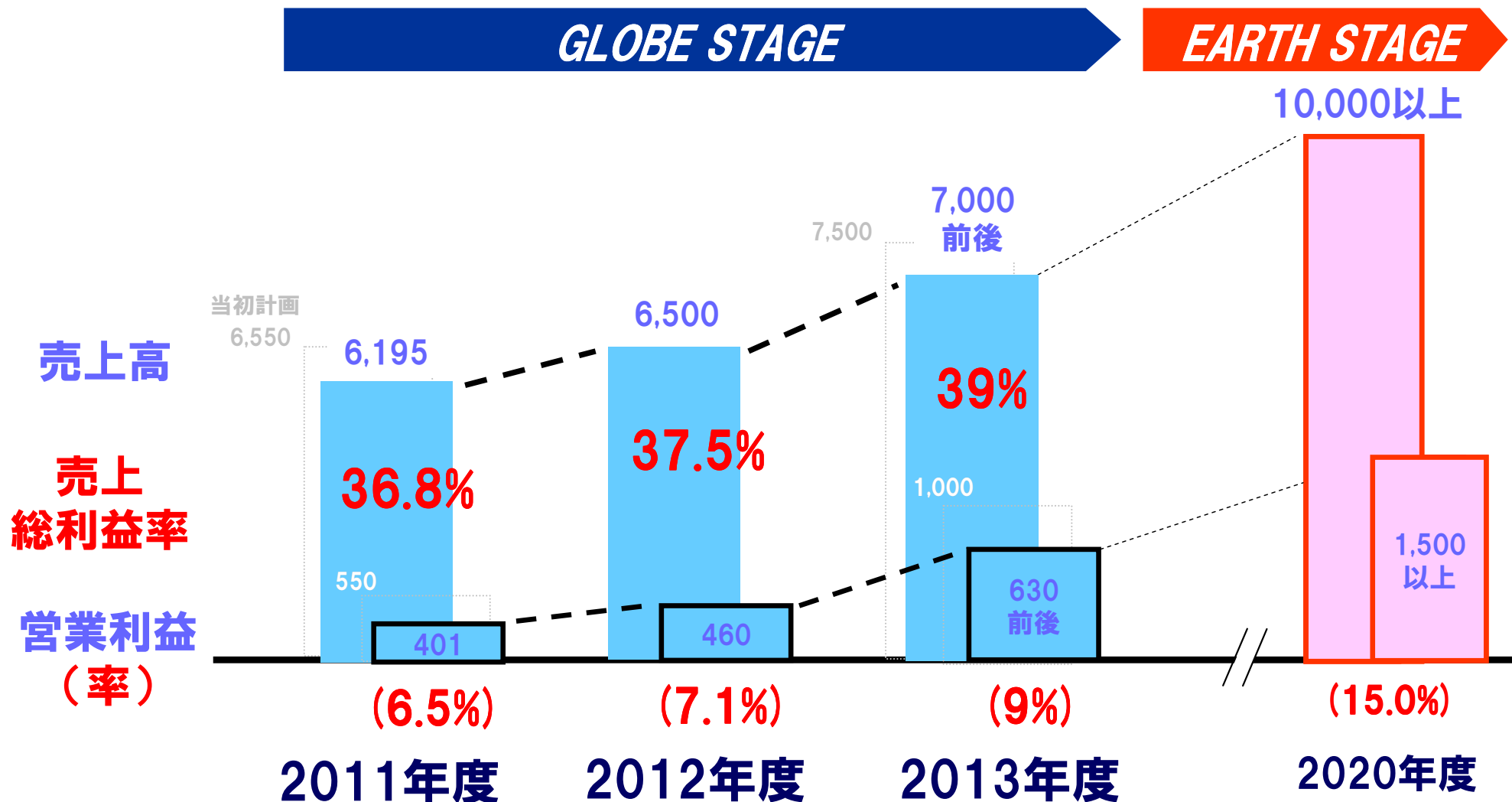
- ① IA事業(IAB+EMC)の最強化
- ② 新興国での売上拡大
- ③ 環境事業への注力
- ④ 収益構造改革
- ⑤ グローバルの人財強化



# GLOBE STAGEのマイルストーン

- 2013年度に売上総利益率39%
- 必要な戦略投資を実行した上で、営業利益率9%を目指す

(億円)





- 過去1年間の事業環境の変化を踏まえ、2013年度目標を再設定
- 利益率の高い新商品の市場投入や変動費の削減等を着実に実行し、売上総利益率の向上をはかる

(億円)

	2011年度	2012年度 (計画)	2013年度 (目標)
IA事業売上高 (IAB+EMC) (成長率)	3,538 -	3,630 (+2.6%)	3,920 (+8.0%)
新興国 売上高 (成長率)	1,700 -	1,900 (+11.8%)	2,200 (+15.8%)
環境事業関連 売上高 (成長率)	219 -	290 (+32.4%)	400 (+37.9%)
売上 総利益率 (成長率)	36.8% -	37.5% (+0.7P)	39% (+1.5P)



## 実行施策 (2012年4月26日現在)

### IA(IAB+EMC) 事業強化

次世代コントローラNJシリーズ 発売

上海リレー工場の移転・増床

オートメーションセンタ 世界3拠点開設

◀ M&A、アライアンスの推進 ▶  
中国パワーラッチングリレーメーカー買収  
中国システムインテグレーターとの合併会社設立

### 新興国での 売上拡大

IAB グローバル戦略商品 拡充

インド・ブラジル 販売ルート強化

IAB 中国 営業/SE人員 拡充

インド地域本社 設立

IAB 中国 販売ネットワーク強化

インド・ブラジル ブランド浸透活動

### 新規事業

環境事業 NTT西日本と  
(株)NTTスマイルエナジー設立

健康サービス事業  
NTTドコモ提携

省エネソリューション事業 強化

ウェルネスリンク 拡大

## ➤ M & A、アライアンスを積極展開し、中国市場におけるIA事業の競争優位を強化

### ◆ 中国システムインテグレーターとの合併会社設立

#### 拡大する自動化ニーズへの対応力を強化

欧姆龍通靈自動化系統(杭州)有限公司 (略称:OTA)  
OMRON Tongling Automation System (Hangzhou) Co., Ltd.

設立: 2012年3月 資本金: 6,000万RMB

事業内容: 制御部品/システムなどの開発・製造・販売、  
コンサルティング及びアフターサービスの提供

出資比率: 欧姆龍(中国)有限公司:51% 杭州通靈自動化股份有限公司:49%

### ◆ 中国パワーラッチングリレーメーカーの買収

#### 成長が見込まれる中国市場向けスマートメーター用リレー事業を強化

上海貝斯特電器制造有限公司 (ブランド名:BST)  
Shanghai Best Electrical Appliance Manufacturing Co.,Ltd.

契約締結: 2011年9月 BST社 資本金: 200万RMB

事業内容: パワーラッチングリレーの開発・製造・販売



# 参考資料



## <為替レートによる影響額(通期)>

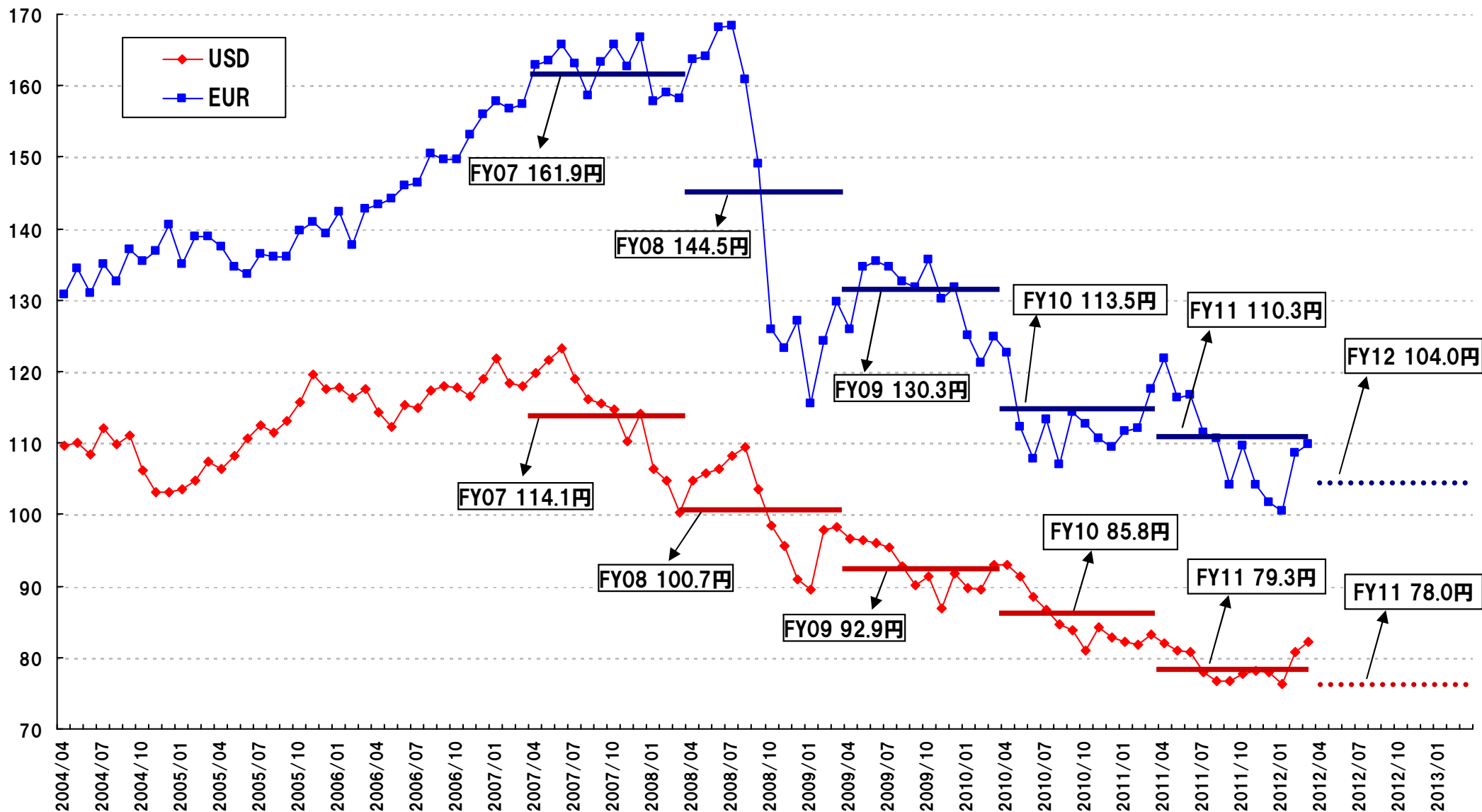
通貨	売上への影響額	営業利益への影響額
USD	約28億円	約7億円
EUR	約8億円	約4億円

## <銀・銅の価格変動による影響額(通期)>

原材料	変動額	営業利益への影響額
銀	1,000円/kg	約1億円
銅	10円/kg	約1億円

# 為替レートの推移(ドル、ユーロ)

USD/EUR(円)

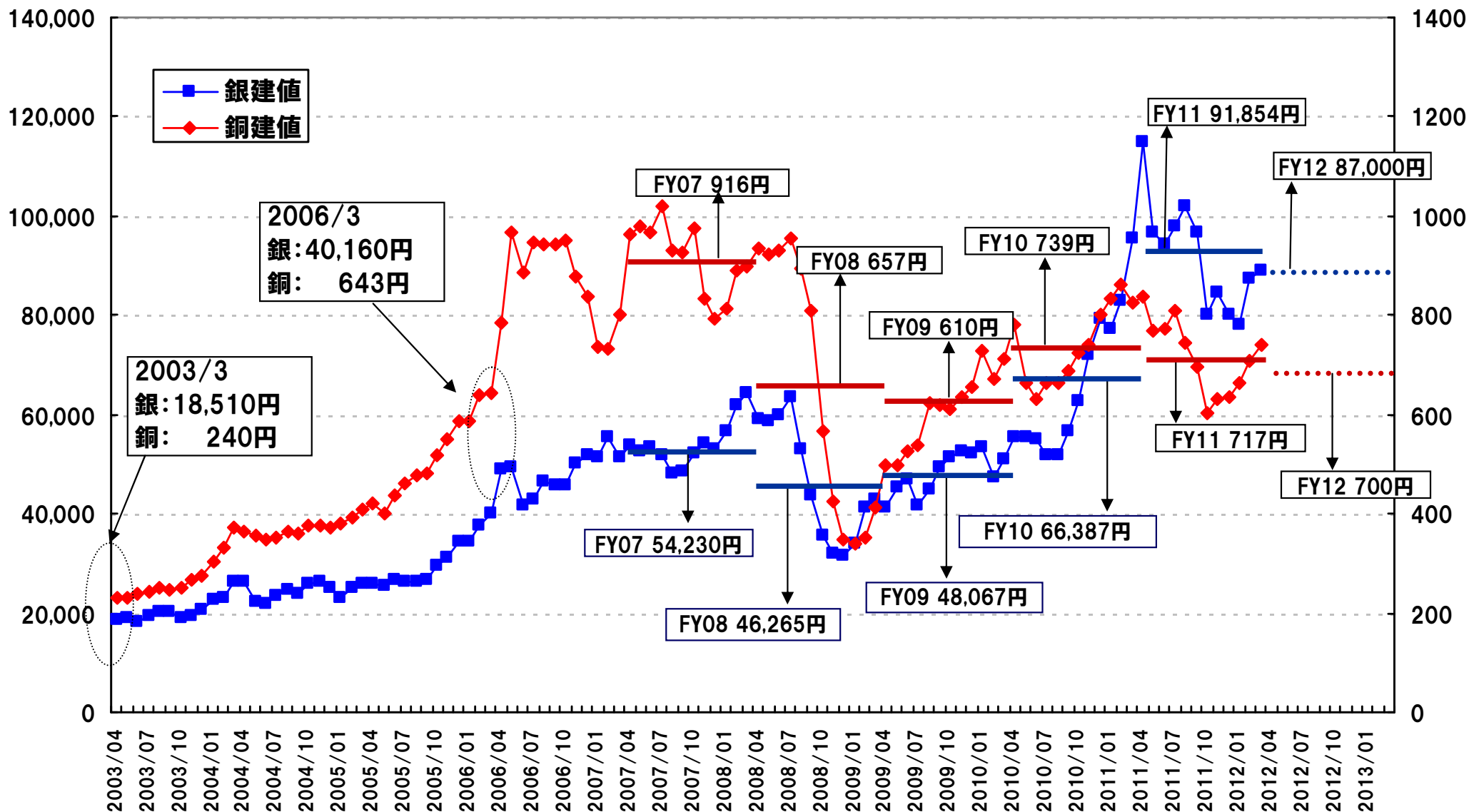




# 原材料価格の推移(銀、銅)

銀建値(円/kg)

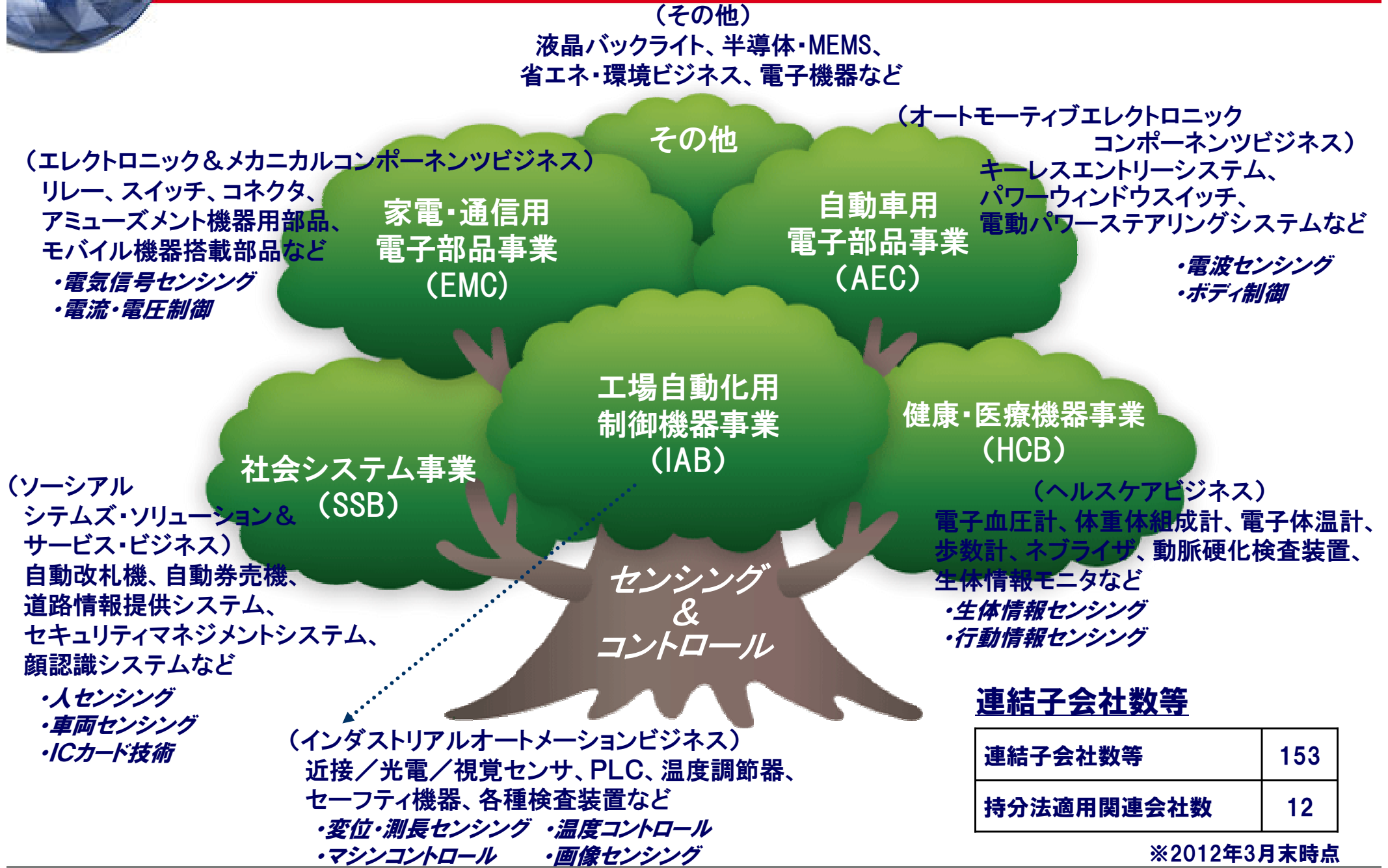
銅建値(円/kg)



※グラフ中の数値は、期中の建値の単純平均値



# オムロンの事業内容



## 連結子会社数等

連結子会社数等	153
持分法適用関連会社数	12

※2012年3月末時点





**<注意事項>**

1. 当社の連結決算は米国会計基準を採用しています。
2. 業績見通し等は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なることがあります。実際の業績等に影響と与える重要な要因には、( i )当社の事業領域を取り巻く日本および海外の経済情勢、( ii )当社製品・サービスに対する需要動向、( iii )新技術開発・新商品開発における当社グループの能力、( iv )資金調達環境の大幅な変動、( v )他社との提携・協力関係、( vi )為替・株式市場の動向、( vii )事故・震災などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

**<お問い合わせ>**

**オムロン株式会社**

**経営IR室 経営IR部**

**電話** : 03-6718-3421

**E-mail** : [omron\\_ir@omron.co.jp](mailto:omron_ir@omron.co.jp)

**HPアドレス** : [www.omron.co.jp](http://www.omron.co.jp)